

フリースタイルな 僧侶たちの フリーマガジン

2012/4・5
Vol.16
Japan
since 2009.8

Special

インターネット寺院「彼岸寺」開基 松本圭介さんに聞く
「苦しみ」という名の「ニーズ」に応える



フリースタイルな行者の「精進生活」
イベントインフォ"仏教体感" ETC

<http://freemonk.net>



光明寺境内にある、お寺カフェ「ツナガルオテラ 神谷町オープンテラス」の様子

「苦しみ」という名の「ニーズ」に応える

若手僧侶たちの間では、仏教のあり方を見つめ直す動きが広がりつつある。そのなかでも特に注目を集めるのが浄土真宗本願寺派僧侶、松本圭介さん（32歳）だ。松本さんは超宗派の僧侶たちが集うブログサイト「彼岸寺」を設立するほか、お寺での音楽会「誰を彼」や、お寺カフェ「ツナガルオテラ 神谷町オープンテラス」（写真上）を運営し、「気軽に足を運べる寺空間」をプロデュースしてきた。また、南インドのビジネススクールにMBA留学した経験を活かし、「一人ひとりの人と社会を変える存在」としての寺院運営を考えた「未来の住職塾」を開講、なおかつ執筆活動にもいそむという八面六臂の活躍ぶりである。

輪番編集長を担当した私増田将之も、同じ世代を生きる一人の僧侶。模索の仕方は違っても、寺院・僧侶と世間とのつながりのカタチを再構築しようという問題意識は、きつと通底する。松本さんを迎えてのデイスカッションでは、お寺と人々との縁の様々なつむぎ方に話が及んだ。

インタビュー

——松本さんは、東大を出てお坊さんの道を選ばれました。他の選択肢もあったと思うのですが、僧侶になった理由は？

実家の隣が祖父が住職を務めるお寺だったという、常に仏教が近くにある環境のおかげが大きいかもかもしれませんね。北海道の小樽で生まれ育ったので、地域社会とお寺との関係が密接であることを肌で感じとれて、「仏教っていいよね、お坊さんっていいよね」という感覚を小さい頃からずっと持っていたように思います。

「いつかお坊さんになってみたい」という願望は漠然とありましたが、こんなに早くなるとは思わなかったです。東大に行って、より一層仏教に興味を持って、友人と仏教の魅力について語っている時に、「そんなに好きだったら、お坊さんになったら」と言われた一言が、私の中では一つのターニングポイントになりました。「そんな選択肢も悪くない」と思い、たまたまご縁ができた浄土真宗本願寺派光明寺の門をたたき、お坊さんの道を歩かせていただいています。

その頃、「お寺って、もつと色々できるんじゃないか」と考えたことが「彼岸寺」や「オープンテラス」などの活動の原動力になっています。スピリチュアルな本や人が

流行る今の世の中で、みんなが探している選択肢の中に、伝統仏教があまり入っていない気がして……。

それぞれの時代、一人ひとり、人が抱える「悩み」や「苦しみ」は違います。不安な世の中だからこそ、「安心」を提供できれば嬉しいです。仏教の良さと安心感をベースに、一人ひとりが自分の心に「気づき」を持ってもらえるような、そんな場にお寺を変えていきたい。だからもつとたくさんの人にお寺に来てほしい。お坊さんとして、同じ志を持つ仲間と共に頑張っていければなあ。

今年1月からスタートした「未来の住職塾セミナー」が注目を集めています。

お寺の運営の方法論や事例をたくさんの人たちと共に学ぶこと、ネット上だけではできない、顔を合わせてつながるご縁作り・仲間作りをすること、この2点が「未来の住職塾」を開催する狙いです。

インドのMBA（経営学修士）コースで学んでみて感じたのは、「学ぶ」ことだけでなく、志を共にする人たちが集まってお互いに高めあい、人材が繋がってネットワークができることにも大きな意味があるのではということです。仲間と同じ気持ちを持ちながら切磋琢磨していくことが重要だと思います。

（聞き手・仲西俊光）

松本圭介（まつもとけいすけ）

1979年北海道生まれ。浄土真宗本願寺派光明寺僧侶。蓮花寺佛教研究所研究員。米日財団リーダーシッププログラム Delegate。東京大学文学部哲学科卒業。

超宗派仏教徒のウェブサイト「彼岸寺」(higan.net)を設立し、お寺の音楽会「誰そ彼」や、お寺カフェ「神谷町オープンテラス」を運営。ブルータス「真似のできない仕事術」、Tokyo Source「東京発、未来を面白くするクリエイター、31人」に取り上げられるなど、仏教界のトップランナーとして注目される。2010年、南インドの Indian School of Business で MBA 取得。現在は東京光明寺 (komyo.net) に活動の拠点を置く。

著書に『お坊さんが教えるところが整う掃除の本』、(デイスカヴァー21社)『脱「臆病」入門』(すばる舎)など。





ザ・座談会

——「彼岸寺」というネット媒体と、「フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン」（以下「フリスタ」）という紙媒体で、お互いに意識し合っているところはありますか？

松本：学生時代からウェブデザインの仕事などをしていたので、私にとって紙よりもネットのほうがコストも抑えられるし使いやすいという点で自然な選択だったのですが、紙媒体も良いですね。色々な手法で仏教を広めるという動きが若いお坊さんから出てくるのは、とても良いことだと思います。ビジネスでも「社独占」ではマーケットが広がらないと思います。いくつかの選択肢があったほうが、様々な層に仏教が浸透していきます。

池口：同感ですね。私たちは活動の中心を意識的に関西に置いています。「（関東の）彼岸寺に負けるな」とスタッフも力が入りますし、周囲も応援してくださっています。お互いに意見を交わしつつ切磋琢磨できればいいですね。

増田：どちらも立ち上げ時期から知っている私からすると、紙もネットも根本的なところは一緒なのかなと思っています。仏教にちょっと興味のある人に、ネットなりフリーペーパーなりで、さらにもう少し興味を深めていただくこうとしている。松本さんも池口さんも模索しながら前へ進もうとしている姿が生き生きしていて、私自身は楽しく両方を見えていますね。仏教にちょっとでも目を向けてもらうために、若い僧侶が汗をかく。その点に、メディアも読者も引き寄せられている。今後は引き寄せたものを離さず、コンテンツを充実させたり、読みやすくしていくことが、大切でしょうね。

増田将之（ますだまさゆき） 今号輪番編集長

1976年生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。中央仏教学院および龍谷大学文学部真宗学科卒業。

業後は、東北教区山形組善行寺（北島典生住職）および京都教区上西組勝満寺（海野貞行住職）において法務員として、また、つくば恵光寺（財団法人仏教伝道協会建立）においては法務員および事務員として奉職し、日本各地をわたり歩いて様々な文化圏で布教活動に従事してきた経験を持つ。現在は財団法人仏教伝道協会にて勤務。



池口龍法（いけぐちりゅうほう）

1980年兵庫県生まれ。浄土宗僧侶。幼少のころよりお寺で育ち、京都大学、同大学院ではインドおよびチベットの仏教学を研究。大学院中退後、2005年から現在に至るまで知恩院に奉職。

2009年8月に超宗派の若手僧侶を中心に「フリースタイルな僧侶たち」を発足させ、代表に就任。フリーマガジン（本誌）の発行のほか、「お寺で宇宙学」「経典をナナメから読む会」など仏教と気軽に会おうための「縁」を柔軟な発想で創り出す。その取り組みは、朝日新聞土曜版be「フロンランナー」に掲載されるなど、各種メディアでも高く評価されている。

——彼岸寺には「仏教人」データベースというコンテンツがあります。お寺の地縁性を生かすよりもダイレクトに読者と仏教者をつなげようとする点に、東京らしさを感じるのですが。

松本：魅力的なお坊さんを紹介して「この人の話が聞きたい」という人に対して、アクションを起こしてもらおう。つながりという「ご縁」を増やすために「お坊さん」つながる「データベース」ですね。東京は、他の地域とくらべると、やはりお坊さんと接する機会が少ないと言わざるをえません。例えば、命日ごとに檀家さんやご門徒さんの家を訪ねる「月参り」という習慣があまりなく、お寺に来ていただく機会は、法事か彼岸、あとは浄土真宗で言えば報恩講の時ぐらいです。街の中でも、お坊さんの姿を見かけることはとても少ない。身近な存在じゃないんです。だから、ダイレクトにコンテンツで訴求して、「自分にあつた『お坊さん』を探してみてもどうですか？」というのが、「仏教人」データベースのコンセプトです。

お坊さんがお寺を出て人のいる場所へ積極的に出て行くことも重要です。江田智昭さん（現在、恵光日本文化センター勤務）が企画された「プロジェクトダーナ（傾聴）」など、素晴らしい活動だと思っています。お年寄りのおられる施設へお伺いして「ただただ、話を聞く」ということですが、このような試みが今後大事でしょうね。

池口：私の生まれ育った関西では、この「月参り」の風習が根付いています。毎月お檀家さんの家などに伺うと、家庭の状況がわかります。いつも片付いている家が散らかっているときは「何か」があります。それを察知して言葉を交わすなかに、今で言う「カウンセリ



つながりという「ご縁」をふやす。
ネット寺院「彼岸寺」の仏教人データベース

ング」を僧侶が果たしてきたはずで、また、繰り返し顔を合わせることでお寺との距離感も近くなつて、お寺を応援してくれそうです。

「月参り」という文化は非常に面白いものだと思います。

増田：私は関東の千葉県出身で、一般家庭から僧侶にならせていただき、初めて京都で法務をさせていただいたときは、「なんで毎月檀家さんの家を訪ねていくんだろう」と不思議な感じを覚えました。今では非常に良い習慣だと思えます。茨城県のつくば市の、建つて間もない新しい寺の法務を任せられたとき、誰一人お参りに来ない寺にどうしたら来てもらえるかと必死で考えて、チラシを配ったり、地域の町内会に顔を出したりしました。そして、ご縁ができた方々には「月参り」をしたり、とにかく地域との距離を縮めるように努力しました。その積み重ねをやつと、お寺として認めてもらえるようになったと思います。徐々にお参りに来てくれる方や相談ごとも増えましたから。

松本：インドで経営学を学んできて、お寺とマネジメントを結びつけて考えたとき、「お寺の強み」はなにかというと、地域社会と強くコミットして、何世代にも渡る信頼感のある関係性を築いている点。一人ひとり、お檀家さんとの長い深い付き合いが資産となっている。お寺の幼稚園などはその強みを生かして行われている事業ですが、介護とか在宅ケアとか、これからはお年寄りとの新たな関わり方を求める動きが活発になってくるでしょう。

——「お寺や仏教は本当に求められているのか」という根本的な批判もときに聞かれますが。

松本：経営で大切なことは「ニーズに応える」ということですが、お寺では、「苦しみに応えることが大切なのではないか」と思います。私の出身地の北海道は、お寺の歴史が比較的短いこともあってか、お檀家さんの間では「私の寺」という意識が強い。信頼も厚く、お檀家さんが家の鍵をお寺に預けてしまつており、家の人が不在でもお坊さんが鍵を開けてお参りすることもあるといいます。

「何かあったらどうするんだ」と思うような話ですが、お寺と地域が非常に深い信頼関係にあることの証でしょうね。ただ、地域によっても国によっても、人間の間合いのとり方は違うのが当然。その上で、私は東京に住む人々が仏教を必要としていると確信しています。東京には東京の関わり方があるはずです。どこであっても、お寺と地域社会がコミットし、「安心」というものを常に提供できる場であり続け、長く続いていくことを私は望みます。

池口：私は檀家さんと鍵の貸し借りまでしたことはありませんが、長年お付き合いのあるお檀家さんの家なら、留守中でも仏壇の前でお経をあげて帰ってきます。やっぱり信頼関係の中こそお寺は成り立つもので、そこに「安心」があるわけです。しかし、関東ではお坊さんに対する親近感が薄いように感じるときがあります。例えば、関西では袈裟姿のお坊さんを電車で見かけるのが当たり前ですが、東京ではそのような光景をまったく見かけませんし、お坊さん自身も袈裟姿を晒すことを嫌うように思います。以前、秋葉原を袈裟姿で歩いたら、コスプレと間違えられる始末でした。だから、松本さんには、東京での仏教に対する風向きを変えて欲しいと期待しています。

増田：私は中学校三年の時まで「死」というものが本当に怖くて、「重いもの」としか考えられなかったけれど、お師匠さんと出逢って、話を聞いてもらって、おかげで「死Ⅱいつか通る道」と思うことができて少し心が軽くなりました。私が仏門に入ったのは、そのお師匠さんとの縁からです。そのような自分自身の体験があるから、現代にも仏教は必要だと断言できます。お坊さんの仕事は、とにかく、「話を聞く」こと。地域や年齢などのレイヤーを考えてコンテンツを考えることも大切ですが、いざ一対一になったときにはそれは関係ない。苦しい人はみんな「話を聞いてもらいたがっている」という部分を理解して受け入れる。その土台があれば、どのような場所や環境でも信頼関係は育つていくと確信しています。

——座談を終えて、いかがでしたか？

増田：松本さんも池口さんも、従来にはないキーワードを使って仏縁の種を引き寄せようと努力していると感じました。引き寄せた種を離さず、良い土台の上に乗せて、大きく育てていつていただきたいと思います。私も、都市にお寺を作りたいという願望を密かに抱いているので、夢に向かって少しずつステップアップしていくつもりです。

進行・仲西俊光（ライティング協力・丑尾健太郎）

【撮影・糸井康友】



松本さん近刊の著作。「掃除」や「臆病」という仏教以外の用語をキーワードにすることで、仏教書コーナー以外の場所で仏教と出合っていたくのが狙いだったか

各月

Buddhism Through English 2012 —The First Semester— (平成24年度仏教聖典を初歩英語で学ぶ会 前期)

『和英対照仏教聖典』をテキストとして使用し、日本語と英語を交えながら講義を進めていきます。仏教に興味がある方、英語に興味のある方、どなたでも参加いただけます。楽しく、英語を通して仏教を学びましょう。

講師：田中ケネス先生(武蔵野大学教授)
時間：18時30分～20時
開講日：全6回

前期：忙しい人のための仏教
—教え、歴史、日常生活—

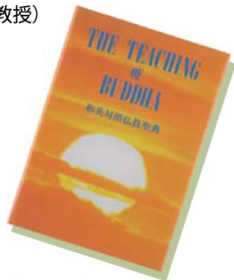
- 第1回 2012年 4月26日(木)
- 第2回 2012年 5月24日(木)
- 第3回 2012年 6月28日(木)
- 第4回 2012年 7月26日(木)
- 第5回 2012年 9月27日(木)
- 第6回 2012年 10月25日(木)

テキスト：『和英対照仏教聖典』1,600円(貸出も可)
会費：6,000円 定員：40名
場所：〒108-0014 東京都港区芝4丁目3-14
仏教伝道協会センタービル 8F「和」の間
(<http://www.bdk-jp.org/bdk/access.html>)

●お申込みは、当協会ホームページをご覧ください。お電話でもお申し込みしていただけます。お申し込み期限は、2012年4月20日(金)迄です。なお、会費は当日お支払いください。

※平成23年度の受講生も、再度お申し込みが必要です。

(財)仏教伝道協会 担当：大來(オオギ)
Tel: 03-3455-5851 Fax: 03-3798-2758
Email: bdk@bdk.or.jp URL: <http://www.bdk.or.jp>



4/28
土曜日

宿坊でできる七つの修行

宿坊ってご存知でしょうか?お寺や神社の宿泊施設であり、日本の文化と歴史が味わえる最強の宿。しかし多くの誤解を受けている未知の空間でもあります。お坊さんに怒られる?ぼろぼろの部屋に雑魚寝する?そもそも自分は泊まっていけない?そんな不安を吹き飛ばします。

そこで今回のテーマは宿坊でできる修業体験。座禅や写経は罰ゲームではありません。精進料理は一流料亭にも負けないおもてなし料理です。その他、12年に渡って宿坊泊まり歩きの旅を続ける宿坊研究会代表・堀内克彦が、初めての方でも体験できる修行の魅力をたっぷりとお伝えします。宿坊に泊まってみたくて、どこに行けばいいかわからないあなた。ぜひお台場で、お気に入りの宿坊を発見してください。

- 日時：平成24年4月28日(土)
Open 12:00 Start 12:30 End 15:00 (予定)
- 場所：東京カルチャーカルチャー
東京都江東区青海1丁目3-11Zepp Tokyo2F
ゆりかもめ「青海駅」前
りんかい線「東京テレポート駅」より徒歩5分
- 参加費：前売り券 2,000円 当日券 2,500円
(飲食代別途必要・ビール 600円など)
- 運営：ニフティ株式会社
前売り券はファミリーマート店頭や
イープラスにてご購入いただけます。

4/25
水曜日

特別講演&交流会 チベットのお坊さんに聞く 子どもの育て方

1998年、インドのヒマラヤのふもとのタワンという村に、トブテン・フンチョックという若きチベット僧が、親をなくし生活に苦しむ子どもたちのためにマンジュシュリ孤児院をつくりました。今では182人の子どもが学ぶようになり、ダライ・ラマ法王も、新校舎の設立を強く望まれています。

今回のイベントでは、トブテン僧の来日にあたり、孤児院で生活し勉強する子どもたちの様子や、子どものためにどのような教育を大切にしているかをお聞きします。

和気あいあいとした雰囲気の中で、チベットのお坊さんと交流し、次世代を担う日本とチベットの子どもたちのことを一緒に考えてみませんか?

- 日時：平成24年4月25日(水)午後2時～5時
- 場所：圓融寺 本堂(阿弥陀堂)
東京都目黒区碑文谷1-22-22
TEL: 03-3712-2098

圓融寺ホームページでも参加申し込み可能です。
<http://www.enyuu-ji.com/event>

- 参加費：お布施(お気持ち)
※全額をマンジュシュリ孤児院学校に
寄付させていただきます。
- 主催：マンジュシュリ孤児院学校プロジェクト

5/20
日曜日

極楽パンチ

極楽パンチは「新潟県中越地震の復興イベントに」と集めてくださった義援金を元に、2006年から始まりました。新潟県小千谷市にある極楽寺を会場にエコをテーマに開催される、エコマーケットとキャンドルナイトのイベントです。

- 会場：極楽寺(新潟県小千谷市平成2-5-7)
日時：平成24年5月20日(日)
- 【エコマーケット 10:00-15:00】
エコブース 飲食ブース フリーマーケット
- 【キャンドル × バルーンナイトライブ 16:30-21:00】
LIVE: 七尾旅人 × U-zhaan
映画: ミツパチの羽音と地球の回転
Hand made candle TAIMU(キャンドルデコレーション)
Daisy balloon(バルーンデコレーション)
Ticket: 前売 3,000円(4月1日発売) 当日 3,500円

申込先: gokuraku-p@mail.goo.ne.jp
*お名前・住所・電話番号・チケット枚数を
記入の上お申し込みください。

Information
blog : <http://blog.gokuraku-punch.com/>
Twitter : <http://twitter.com/#!/ecopunch2004>
Facebook : <http://www.facebook.com/pages/極楽パンチ/293438204037582>

4/11
5/11

～ 仏教は失恋に効くのか!? ～ 経典をナナメから読む会

「失恋したときにお釈迦様ならどんな言葉をかけてくれたらう?」というスタッフ 辻村優英(当時失恋中)の素朴な問いかけから始まったのが、「経典をナナメから読む会」。

この勉強会では人間の永遠のテーマである「失恋」をはじめ、参加者それぞれの日々の悩みに向き合いつつ、経典の言葉をひもといっていきます。もちろん、経典の成立史や正しい解釈にもできるかぎり迫ります。

辻村と池口がゆるーく経典について語っていきますので、参加者のみなさまからも臆することなく感じるままにツッコミを期待します。きっと、新しい気づきがあるはずですよ。

※各回のテキストはこちらでも準備いたしますが、予習されたい方はお買い求めください。

第4回 平成24年4月11日(水) 19時～21時

テキスト：『尼僧の告白ーテーラーガーター』(岩波文庫)

初期の仏教教団において女性がどのような悩みを持ち、また、お釈迦様はその悩みに対してどのように語ったのか。あわせて、「日本仏教とジェンダー」という問題についても簡単に考察いたします。

第5回 平成24年5月11日(金) 19時～21時

テキスト：『大乘仏典<13>ブッダ・チャリタ』(中公文庫)

お釈迦様の生涯を遺し伝える叙事詩を読み、仏教のルーツをあらためて味わう時間を持ちます。

会費：各 1,500 円(フリスタ会員は各 1,300 円)

※うち 1,000 円は震災復興支援のため寄付いたします。

定員：各 10 名 ※要予約・先着順

会場：フリースタイルな僧侶たち オフィス
〒600-8119 京都市下京区河原町通五条下ル
本塩竈町 583-5 kawaramachi place 1002 号室
Tel : 075-555-5730

京阪電鉄「清水五条」駅より徒歩 6 分

予約連絡先：info@freemonk.net

※フリースタイルな僧侶たちホームページからも、お申し込みできます。

主催：フリースタイルな僧侶たち

5/30
～6/1

実践布教研究会 at 延暦寺

布教伝道 一隅を照らす～最澄上人に学ぶ～

財団法人 仏教伝道協会では毎年「実践布教研究会」を主催し、各本山での修行の実践、宗派の枠を超えた僧侶間の交流を通じて、衰退の一途を辿る日本仏教の現状を共に変えて行く一助となればと願っています。第 4 2 回目となる今年は、「天台宗総本山 比叡山 延暦寺」が会場です。最澄上人が開かれた比叡山は、鎌倉新仏教の祖師方が学ばれた場でもあります。

研究会で行う「回峯行の実践」では、藤波源信 阿闍梨に先達をお願いしております。

この他、浄土院・根本中堂の参拝、止観、ご講話(比叡山延暦寺 執行 武覚超 先生/妙法院門跡 菅原信海 先生)、天台座主 半田孝淳 猊下の御言葉など、盛りだくさんの内容です。

[募集要項]

- ・ 期 間：平成 24 年 5 月 30 日(水)より 6 月 1 日(金)までの 2 泊 3 日
- ・ 集合場所：JR 京都駅八条口
- ・ 集合日時：5 月 30 日(水) 午後 1 時(受付開始)
- ・ 解散日時：6 月 1 日(金) 午後 3 時頃
- ・ 会 場：天台宗総本山 比叡山延暦寺
- ・ 人 数：50 名 ※定員になり次第締切とさせていただきます。
- ・ 資 格：僧侶、尼僧、坊守、寺族
※回峯行を含め全行程に参加可能な方に 限らせていただきます。
- ・ 一 金 25,000 円也 (宿泊代、食費、研究資料代、懇親会費等含む)
締切切りは平成 24 年 4 月 25 日(水)です。

- お問い合わせ -

財団法人 仏教伝道協会内 実践布教研究会開催事務局
〒108-0014 東京都港区芝 4-3-14 TEL : 03-3455-5851
FAX : 03-3798-2758 E-mail : bdk@bdk.or.jp

各日

つきいちボンサンと語ろう会

「BONZE くらぶ」(別称 つきいちボンサンと語ろう会、毎月 26 日と最終土曜日開催)とは、仏教僧が不特定多数の老若男女との出逢いと語り合いの場を求めて寺から飛び出し、1988 年 2 月からスタートした会の名称です。

年齢・性別・職種・国境・宗教・宗派など一切の枠を越え互いに互いの意見や考えを吸収しあいたく、誰でも参加できるよう、会員システムや会規約等が一切存在しない、気楽な月一回のテーマに沿って語り合う座談会です。もちろん仏教への質問、相談も OK! 気楽にお立寄りください。ご縁を大切にしたいと思います。

開 催 日：4 月 26 日(木) 28 日(土) 5 月 26 日(土)

時 間：18 時 30 分～ 20 時

料 所：1,000 円(フリードリンク&町家維持基金)

場 所：BONZE くらぶハウス「堀北庵」

住 所：京都市北区紫野下柳町 47-1

電話番号：075-432-8716

アクセス：地下鉄烏丸線北大路駅下車、西へ北大路新町交差点まで行き、その交差点を北へ。一筋目を西へ。最初の十字路東北角です。

主 催：THE BONZE くらぶ

URL : <http://www.bonzeclub.net>



フリースタイルな行者の 「精進生活」



先日、インドとパキスタンへの巡礼に行っていました。イスラムの国であるパキスタンでは、本来、仏教の巡礼を行うことはできません。しかしながら、パキスタン・ラホール博物館にはカンタラ美術の最高峰が数多く展示されており、その中には私がお会いしたいと願っていた、有名な「釈迦苦行像」もおられます。

「釈迦苦行像」は、6年にわたる厳しい苦行を続けられた釈尊の御様子が表現されています。

「釈迦はヨーガ行を行ずる人々のうち最高の行者であった」
『楞伽経（りょうがきょう）』

苦行を極限まで追求された釈尊は、1日の食事を胡麻一粒と米一粒にまで制限し、ついに骨と皮だけにやせ衰えてしまいます。そのような苦行によって得たものは、ただの心身の疲労のみであり、悟りに役立たないと気付かれた釈尊は、苦行を捨てられます。この後、スジャータという娘に粥を供養され、健康を取り戻し、再び涼しい菩提樹の下で瞑想に入られ、悟りを開かれます。

釈尊は悟りを強く求め、命がけの苦行をされた為、このようなお姿になられたのです。「釈迦苦行像」のお姿は悟りを開かれる直前の誓願の熱をおびた力強いお姿であり、行者として理想の姿です。

私は博物館に入ると、真つ直ぐ引き寄せられるかのように、尊像の前に到りました。そのお姿は一際オーラを放っていたように思います。私は、博物館という場であることとははからず、尊像の御前で三礼し、読経させていただきました。

尊像の加持を受けた私は、釈尊が語りかける教えを観じ、胸が熱くなりました。精進し、行にはげまねはと、今も身が引き締まる思いでいます。
ナムナム ありがたや。



小野剛賢 昭和51年3月17日生 高野山真言宗 薬師院 副住職
<http://www.eonet.ne.jp/~yakushi/> 高野山真言宗・薬師院 HP
<http://ajikan.blog.eonet.jp/default/> ブログ

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジンは

「仏教を通じて誰もが心安らかに生きられる社会づくりを」
それが、仏教に縁をいただきながら生きる私たちの願いです。

「お坊さん＝お葬式」というイメージが定着しています。しかし、仏教にいま求められているのは、お葬式だけのお寺とのつきあいではなく、先行きが見えず生きにくい社会を、心安らかに生きられる社会に変えて欲しいということではないでしょうか。

私たちは、その期待に応えるために、既成概念に固執することなく、日本仏教のあり方をフリースタイルに見つめ直していきます。

仏教を心のよりどころにして、いまを生きるということと一緒に考えてみませんか？

カフェでの座禅会（朝一座禅）、お寺で専門家と宇宙を語る集い（お寺で宇宙学）、仏教入門のためのトークライブ、年末には禊ぎの法会（仏名会）など、仏教を実際に体感できるイベントや法会も随時開催しています。気軽にご参加いただければ幸いです。詳細はホームページよりご確認ください。

私たちの活動をご理解くださる方は、よろしければサポーターとしてご支援のほどお願いいたします。サポーターズ・クラブの詳細は本誌裏表紙をご覧ください。また、一緒にこれからの仏教のあり方を考える僧侶の方々や、デザイナーやコピーライターなど誌面作りと一緒に参加いただけるボランティアスタッフも随時募集しています。どうぞお気軽にお問い合わせくださいませ。

お問い合わせ先：tel: 075-555-5730
 fax: 075-777-9579
 info@freemonk.net

編集後記

今号のテーマは「多様な視点から見る仏教」。多彩なコンテンツを提供し続ける松本圭介さんを突き動かしているものはなにか。

座談会の中で最も強く感じた彼のキーワードは“ニーズに応える”。“ニーズ”を“苦しみ”に置き換えると“苦しみに応える”こと。お寺離れとは言いながらも、お寺に僧侶に“何か”を求めている人は多い。その“何か”の背景には“苦しみ”があり、その“苦しみ”の原因に気づかされていくのが“仏教”である。しかもその気づきは様々であり、一人ひとり違う。だから教えに出逢う機会も様々あってよい。松本さんがネットやメールを駆使し、少しでも仏教に触れる場を創る理由は、そこにあるのではないか。多様な視点をもって、可能な限り“苦しみ”に応えようとする姿勢は、今後のお寺や僧侶に問われるところだと思ふ。

松本さんも、本誌を創刊した池口さんも、共通するのは「とにかく仏教を伝えたい」という想い。今後も、根っこにある想いを共有しながら、多様な視点から仏教を届けていけたら素晴らしい。

今回、宗派を超えて伝道する若手僧侶の座談会を、私の勤める(財)仏教伝道協会で開催し、私自身も参加できたことは貴重な経験となった。

最後に、「黒子」志望の私の覆面をはぎ取り、なぜか輪番編集長の一人としてくれた池口代表に少々の恨みを交えつつも感謝。ありがとうございました。

(16号輪番編集長 増田将之)

読者のみなさまからの お便りを紹介!

フリスタではみなさまのお便りを募集、紹介しています。今回はメールで届いたお便りからのご紹介です。

こんにちは。初めて読みました。
私は宗教関係者では無いですが、魂に響きました!
ダライ・ラマ法王が大好きです。

そして、自殺相談センターのお知らせを見て感動しました。話を聞いてくれる人がいる、自分の事を知ってくれる人がいるのは、とても勇気が湧いてきます。すごく有難うございますの気持ちです。
又、本屋さんでゲットします。

(rotusさん・40代女性・千葉県)

誌面に関するご意見、ご感想もお待ちしております。お気軽にお便りください。応募は郵送、FAX、電子メール、またWebサイトでも受け付けます。ご応募お待ちしております。

あて先：フリースタイルな僧侶たち 編集部
〒600-8119 京都市下京区河原町通
五条下ル本塩竈町 583-5
kawaramachi place 1002 号室

FAX : 075-777-9579

Email : info@freemonk.net

Web : http://freemonk.net

協賛のご報告

本誌発行にあたり、ご支援いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。以下に法人サポーターの方々のお名前のみ掲載させていただきます。

- 安心院 (京都府八幡市・浄土宗)
- 安楽寺 (京都府南丹市・浄土宗)
- 石尾山弘法寺 (大阪府和泉市・真言宗)
- 延命寺 (大阪府堺市・浄土宗)
- 円融寺 (東京都目黒区・天台宗)
- 教伝寺 (京都府船井郡・浄土宗)
- 窪之坊 (山梨県南巨摩郡)
- 九品寺 (京都府京都市南区・浄土宗)
- 光照院 (東京都台東区・浄土宗)
- 光徳寺 (福岡県みやま市・浄土真宗本願寺派)
- 光明院・田中医院 (京都府京都市中京区・浄土宗西山禅林寺派)
- 光明寺 (滋賀県草津市・真宗興正派)
- 西明寺 (兵庫県尼崎市・浄土宗)
- 浄栄寺 (滋賀県東近江市・浄土宗)
- 浄観寺 (滋賀県甲賀市・浄土宗)
- 浄元寺 (兵庫県尼崎市・浄土真宗本願寺派)
- 性高院 (愛知県名古屋市中区・浄土宗)
- 正善寺 (兵庫県伊丹市・浄土宗)
- 正法寺 (京都府京都市東山区・時宗)
- 勝樂寺 (東京都町田市・浄土宗)
- 信覚寺 (福岡県朝倉郡・浄土真宗本願寺派)
- 心光院 (東京都港区・浄土宗)
- 瑞聖寺 (東京都港区)
- 崇福寺 (滋賀県甲賀市・浄土宗)
- 大圓寺 (東京都目黒区・天台宗)
- 臺鏡寺 (大阪府枚方市・浄土宗)
- 檀王法林寺 (京都府京都市左京区・浄土宗)
- 潮音寺 (東京都大島町・浄土宗)
- 長壽院 (東京都台東区・浄土宗)
- 梅窓院 (東京都港区・浄土宗)
- 宝泉寺 (愛知県津島市・浄土宗西山禅林寺派)
- 法善寺 (大阪府大阪市・浄土宗)
- 法然院 (京都府京都市左京区)
- 法華寺 (京都府亀岡市・日蓮宗)
- 万行寺 (東京都東村山市・浄土真宗本願寺派)
- 無量光寺 (鳥取県鳥取市・浄土宗)
- 薬師院 (大阪府岸和田市・真言宗)
- 龍光寺 (和歌山県海草郡・日蓮宗)
- 遠藤新兵衛商店 (京都府京都市下京区)
- 株式会社 薫寿堂 (兵庫県神戸市)
- 寺院コム (京都府京都市東山区)
- 浜屋 株式会社 (兵庫県姫路市)

※ 五十音順に表示しています。
※ 協賛は随時受け付けています。



Mamaia
**浜屋は
 関西最大級の
 お仏壇・お仏具・
 墓石の専門店です。**



浜屋は個人情報保護の企業を示す
 プライバシーマーク取得企業
 です。

やすらぎの世界を創る



浜屋

お仏事・お仏壇・お仏具・お墓・ギフトのご相談は

通話料無料 浜屋姫路本社フリーダイヤル

イロイロクヨー

0120-1616-94

●受付時間/午前10時から午後7時まで

製造直売・関西最大級、30店舗の安心ネットワーク。お近くの浜屋へご来店下さい。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| ■奈良王寺店/大和・王寺町 ☎(0745)31-2211代 | ■西宮店/171線・下大市 ☎(0798)51-2211代 |
| ■奈良生駒店/近鉄・生駒駅北 ☎(0743)83-2211代 | ■芦屋店/JR・山側西 ☎(0797)35-1194代 |
| ■岸和田店/2国・西之内 ☎(072)445-2211代 | ■三田店/三田・対中町 ☎(079)559-2211代 |
| ■堺鳳店/第2・阪和沿 ☎(072)261-2211代 | ■神戸本店/元町・4丁目 ☎(078)371-2211代 |
| ■藤井寺店/近鉄・藤井寺 ☎(072)954-2211代 | ■新長田店/JR・新長田 ☎(078)621-2211代 |
| ■鶴川店/中野・交差点 ☎(06)6709-2211代 | ■明石店/森友・交差点 ☎(078)927-2211代 |
| ■中興東大阪店/近鉄・西若田 ☎(06)6783-2211代 | ■加古川店/JR・駅南側 ☎(079)426-2211代 |
| ■東麗川本店/石津・交差点 ☎(072)829-2211代 | ■高砂店/羽姫除線・中興 ☎(079)443-2211代 |
| ■北方家園店/長尾・家具町 ☎(072)836-2211代 | ■姫路本店/駅前・御幸通 ☎(079)282-2211代 |
| ■高槻店/高槻・樹屋町 ☎(072)683-2211代 | ■福知山店/福知山・役場北 ☎(0790)22-2211代 |
| ■茨木店/茨木・大手町 ☎(072)622-2211代 | ■網干店/網干・浜田沿 ☎(079)272-2211代 |
| ■豊中店/豊中・郵便局横 ☎(06)6848-2211代 | ■龍野店/龍野・大橋東 ☎(0791)62-2235代 |
| ■川西店/川西・火打2 ☎(072)759-2201代 | ■赤穂店/赤穂・塩屋東 ☎(0791)45-2211代 |
| ■伊丹店/阪急・駅前西 ☎(072)775-2211代 | ■山崎店/兵庫・山崎町 ☎(0790)62-5171代 |
| ■尼崎店/阪神・駅南側 ☎(06)6413-2211代 | ■浜屋漆工芸鳥姫路・土山町 ☎(079)293-2211代 |

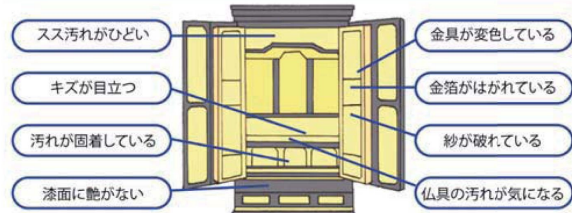
■本社/姫路市南畝町2丁目31番地 TEL.079-288-2211(代)

お仏壇泡洗浄専門店

京都北白川 **一步堂** IppoDou



お仏壇を美しくするのは、ご先祖さま大切なごき方への感謝の心です。
 お宅さまのお仏壇、汚れてないか今一度見直してみませんか？



<泡洗浄>



<金箔泡洗浄>



<金箔補修>



<金具洗浄>



<屏修復>



<外屏磨き>

安価で仏壇仏具の修復のプロが昔の輝きに修復いたします

お仏壇の特許泡洗浄(株)メイクリーンお仏壇本舗加盟店

京都北白川 **一步堂**

☎フリーコール 0120-929-666

詳しくは… | 京都 仏壇 一步堂 | で検索!



サポーターズ・クラブ会員募集中!!

私たちの活動に共感し、
 応援していただける方を大募集中!!

対象者 フリスタを応援して下さる方
 協賛年会費 5千円(個人)/3万円(法人)
 ※サポーターズ・クラブの皆様には、年間6回発行予定の本誌をお届け
 します。また、frisuta主催の各種イベントにおいて、優待いたします。
 ※法人会員の皆様は、誌面にお名前を掲載させていただきます。

会費振込先:三井住友銀行 園田支店(422) 普通 5092943
 フリースタイルな僧侶たち 代表 池口 龍法
 ※お振込みいただく際には、あらかじめご連絡ください。

広告募集中!!

本誌「フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン」に広告を
 出しませんか?

本誌は関西の寺院や仏具店をはじめ、カフェやスペイン料理店
 まで、様々な場所に設置しています。設置箇所は現在も拡大中
 (ホームページで確認できます)！
 興味をもたれた方は一度、お問い合わせください。

《媒体情報》

仕様: A4サイズ・12頁・カラー
 発行部数: 10,000部 (2012年4月現在)

**お申し込み、お問い合わせは、フリースタイルな僧侶たち
 編集部(電話番号などは下記)まで。ホームページから
 もお申し込みいただけます。**

毎月1・15日発行

本誌姉妹版

「フリースタイルな僧侶たちのメールマガジン」
 もお見逃しなく!!

frisutaのスタッフがお届けするメールマガジン
 が存在するのを知っていましたか?

誌面上では語れない制作の舞台裏や最新の
 イベント情報などを配信しています。メルマガの
 登録は、「フリースタイルな僧侶たち」ホームページ
 よりお待ちしております。

一緒に誌面作りませんか?

デザイナーやコピーライターなど誌面作りにな
 一緒に参加いただけるボランティアスタッフも随時
 募集しています。

仏教との出会いの中に、きっと新しい気づきが
 生まれるはず。誌面制作を通じていまを生か
 ることをともに考えてみませんか?

ご関心のある方は、下記の連絡先宛にお気軽
 にお問い合わせください。

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン

平成24年 4月1日発行 第16号
 発行元 フリースタイルな僧侶たち 編集部
 〒600-8119
 河原町通五条下本塩竈町 583-5
 kawaramachi place 1002 号室
 tel: 075-555-5730
 fax: 075-777-9579
 e-mail: info@freemonk.net
 http://freemonk.net

※本誌のコンテンツを無断で転載することを固く禁じます。

題字	しらたきなべお
DTP&デザイン	bdt
輪番編集長	増田将之
総指揮	池口龍法
Special Thanks	松本圭介 (財)仏教伝道協会